

ふりがな かとう ひろし

氏名 加藤 博

1. 学歴

1974年 3月 一橋大学商学部卒業
1974年 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程進学
1976年 3月 同修了
1976年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程進学
1977年 10月 カイロ大学留学(1979年6月まで)
1980年 3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得
1982年 12月 カイロ大学留学(1984年12月まで)
1983年 12月 一橋大学大学院経済学研究科より博士号を取得

2. 職歴・研究歴

1980年 4月 東京大学東洋文化研究所助手
1985年 4月 東洋大学文学部(教養課程)人文科学科専任講師
1988年 4月 同助教授
1990年 4月 一橋大学経済学部助教授
1991年 4月 一橋大学経済学部教授
1993年 4月 日本学術振興会カイロ研究連絡センター派遣員(1994年3月まで)
1997年 4月 国立民族学博物館地域研究企画交流センター教授(併任)(2002年3月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科, 経済学部教授, 現在に至る

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 基礎講義, 地域研究の方法, アジア経済概論, 地域経済概論

(b) 大学院

地域研究方法論, 西アジア経済論, 西アジア経済特論, ワークショップ, リサーチ・ワークショップ

B. ゼミナール

学部前期(教養ゼミ, 基礎ゼミ), 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

前期学部生向けの講義では, 経済現象や経済制度を歴史的な視角から分析する態度を養うことを目的としている。「事実は小説より奇なり」であり, 歴史抜きに今日と将来はないからである。後期学部生向けの講義では, ともすれば偏見をもってみられがちな中東イスラム世界における経済生活を, 実証的かつ分析的に, そしてほかのアジア地域との比較のなかで, 解説することを目的としている。大学院生向けの講義では, 中東イスラム経済の歴史と現

状を分析するために有用な理論枠を検討することを目的としている。学部のゼミナールで扱うテーマは中東を中心としたイスラム世界の政治・経済・社会・文化システムであるが、教育の基本方針は、中東を独自の完結した世界とは捉えず、ヨーロッパ・地中海世界、インド、中国などのアジア世界との関係、比較のなかで考察することである。3年次にはテキストの輪読と討議によって、4年次には卒業論文の指導を中心にして、ゼミを進める。大学院生のゼミナールでは、それぞれの学生の問題関心と研究テーマに応じた専門的知識と分析手段を、テキストの輪読と討議のなかで習得できるように努めている。

4. 主な研究テーマ

- (1) エジプト社会経済史：刊行・未刊行法令・文書を駆使し、土地制度を中心に、近代エジプトの社会経済事情を明らかにした。成果は、博士論文を核に構成された『私的土地所有権とエジプト社会』（創文社、1993年）である。
- (2) エジプト社会史：①文書資料と聞き取り調査結果の突合せによって、近現代におけるエジプト農村社会の変容を多角的に分析した。成果は、『アブー・スィネータ村の醜聞—裁判文書からみたエジプトの村社会』（創文社、1997年）である。②同じ手法を近代エジプトの遊牧民社会に適用し、さまざまに性格を異にする資料を駆使することで、19世紀中葉における「忘れ去られた」遊牧民反乱を復元し、エジプト近代の裏面史を追求した。成果は、「砂漠に消えた「革命」—近代エジプトの遊牧民「革命」」（『地域研究論集』1, 1997年）, “The Bedouin in Egyptian National Identity: Minority or Vagabond?” (JCAS Symposium Series 5, 2001), 「砂漠に消えた「革命」(2)—掘り起こされる近代エジプトの遊牧民「革命」」（『東洋文化研究所紀要』第153冊, 2008年）などである。
- (3) イスラム文明論・イスラム地域研究：中東を中心としたイスラム世界の政治、経済、社会、文化を文明史的観点から多角的に分析した。その成果は、『文明としてのイスラム—多元的社会叙述の試み』（東京大学出版会、1995年）, 『イスラム世界の常識と非常識』（淡交社、1999年）, 『イスラム世界論—トリックスターとしての神』（東京大学出版会、2002年）, 『イスラム世界の経済史』（NTT出版、2005年）, 『「イスラム vs. 西欧」の近代』（講談社現代新書、2006年）などである。
- (4) 2002年からは、日本人研究者としては初めて、エジプトでの社会調査を許されたことを契機に、エジプト中央統計局と合同で、エジプト都市部・農村部の世帯調査を実施し、そこから得られたマイクロ統計データに基づいてエジプト社会を分析するとともに、その結果をセンサスなど、政府発行のマクロ統計データ、ならびに地理情報システム（GIS）関係地理情報と融合することによってエジプト地域研究の新しい分析方法を模索している。その成果は、“Internal Migration Patterns to Greater Cairo—Linking three kinds of data: census, household survey, and GIS—,” (with Ali EL-shazly and Erina Iwasaki) *Mediterranean World XVII*, the Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University, Tokyo, 2004年, 「エジプトにおけるマイグレーションと地域類型—三種類のデータ(センサス統計・世帯調査データ・地理情報)を接合する試み」(岩崎えり奈と共著)『東洋文化研究所紀要』第147冊, 2005年, “Migration, Regional Diversity, and Residential Development on the Edge of Greater Cairo—Linking Three Kinds of Data—Census, Household-Survey Data, and Geographical Data—with GIS,” (with Erina Iwasaki, Ali EL-shazly, and Yutaka Goto), Atsuyuki Okabe (ed.), *GIS-Based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis, Oxford, 2005, “Rashda. A village in Dakhla Oasis,” (with Erina Iwasaki), *Mediterranean World XIX*, 2008 などである。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書

[単著]

『私的土地所有権とエジプト社会』創文社、1993年、xxxiii+668+35頁。

- 『文明としてのイスラム—多元的社会叙述の試み』東京大学出版会, 1995年, 248+28頁。
- 『イスラム世界の危機と改革』(世界史リブレット(37))山川出版社, 1997年, 90頁。
- 『アブー・スィネータ村の醜聞—裁判文書からみたエジプトの村社会』創文社, 1997年, 240+23頁。
- 『イスラム世界の常識と非常識』淡交社, 1999年, 239頁。
- 『イスラム世界の常識と非常識』(韓国語訳) Godo Publishing Co., Korea, 2001年, 250頁。
- 『イスラム世界論—トリックスターとしての神』東京大学出版会, 2002年, 227+23頁。
- 『イスラム世界の経済史』NTT出版, 2005年, 264+19頁。
- 『「イスラム vs. 西欧」の近代』講談社現代新書, 2006年, 205頁。
- 『ナイル—地域をつむぐ川』刀水書房, 2008年, 163頁。
- [編著・論文集]
- 「都市と農村[Ⅱ]」板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラム史』有斐閣選書, 1986年, 231-259頁。
- 『文献解題・東アラブ近現代史研究』(編著)アジア経済研究所, 1989年, 134頁。
- 「エジプト現代史におけるムスリム同胞団」小杉泰編『ムスリム同胞団—研究の課題と展望』国際大学中東地域研究科, 1989年, 23-34頁。
- 「近代エジプト農民運動についての覚書—農民運動からみた近代エジプト社会の変容過程」長沢栄治編『東アラブ社会変容の構図』アジア経済研究所, 1990年, 261-297頁。
- 「エジプト農民の権力観」<シリーズ>『世界史への問い 第6巻民衆変化』岩波書店, 1990年, 75-99頁。
- 『地域からの世界史—8 西アジア<下>』(永田雄三との共著)朝日新聞社, 1993年, 232頁。
- 『イスラムの世界② パスク・イスラミカの世紀』(鈴木董他との共著)講談社(現代新書), 1993年, 273頁。
- 『イスラムの世界③ イスラム復興はなるか』(坂本勉他との共著)講談社(現代新書), 1993年, 270頁。
- 「エジプトにおける社会経済変動と空間編成の変容—近代エジプト「定期市」研究序説」伊能武次編『中東における政治経済変動の諸相』アジア経済研究所, 1993年, 75-124頁。
- 「地域世界と国民国家 アラブ」歴史学研究会編『国民国家を問う』青木書店, 1994年, 87-104頁。
- 「民族・国家・地域—「ナイル峡谷」の概念をめぐって」『中東の民族と民族主義—資料と分析視角』所内資料(地域研究部 No. 6-3)アジア経済研究所, 1995年, 41-49頁。
- 「オスマン帝国の「近代化」—アラブ世界を中心に」歴史学研究会編『講座世界史 3 民族と国家—自覚と抵抗』東京大学出版会, 1995年, 201-231頁。
- 「エジプト地域研究法」『総観地理学講座』2巻, 朝倉書店, 1997年, 54-58頁。
- 「「周縁」からみた近代エジプト—空間と歴史認識をめぐる—考察」『岩波講座 世界歴史』21巻「イスラム世界とアフリカ」岩波書店, 1998年, 169-188頁。
- 「イスラム世界における血の紐帯と社会秩序—エジプト農村社会を事例に」比較法史学会『比較法史研究—思想・制度・社会 ⑦』未来社, 1998年, 65-84頁。
- 「序」, 「アレクサンドリアの憂愁—近代地中海世界の光と影」歴史学研究会編『地中海世界史 3 ネットワークのなかの地中海』青木書店, 1999年, 13-28頁, 202-229頁。
- 「イスラム世界における血の紐帯と社会秩序—エジプト農村社会を事例に」歴史学研究会編『紛争と訴訟の文化史』青木書店, 2000年, 135-163頁。
- 「イスラム社会における法と経済—所有システムの観点から」法文化学会編『法文化叢書①—歴史・比較・情報』「混沌のなかの所有」国際書院, 2000年, 143-164頁。
- 「近代のアラブ社会」佐藤次高編『西アジア史 I アラブ』新版世界各国史, 山川出版社, 2002年3月, 395-451頁。
- 「世界経済史におけるイスラムの位置」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』(社会経済史学会創立

70周年記念)2002年8月, 157-169頁。

「タージルとウラマー」「ダウラ」『キーワードで読むイスラーム』7, 8章, 山川出版社, 2003年, 115-135, 136-156頁。

「経済学とイスラーム地域研究」佐藤次高編『イスラーム地域研究の可能性』(イスラーム地域研究叢書①)東京大学出版会, 2003年, 101-132頁。

「イスラーム市場社会の歴史的構造」三浦徹ほか編『比較史のアジア 所有・契約・市場・構成』(イスラーム地域研究叢書④)東京大学出版会, 2004年, 183-206頁。

「ファラーティー(falati)考—19世紀後半エジプトの「浮浪者」(mutasharriid)」三笠宮殿下米寿記念刊行会編『三笠宮殿下米寿記念論集』刀水書房, 2004年。

「文明化と暴力 アラブ世界」山内進・加藤博・新田一郎編『暴力—比較文明的考察』東京大学出版会, 2005年, 165-188頁。

「イスラーム世界の女性—言説と実態の狭間で」加藤博編『イスラームの性と文化』(イスラーム地域研究叢書⑥)東京大学出版会, 2005年, 3-21頁。

“Migration, Regional Diversity, and Residential Development on the Edge of Greater Cairo—Linking Three Kinds of Data—Census, Household-Survey Data, and Geographical Data—with GIS,” (with Erina Iwasaki, Ali ELshazly, and Yutaka Goto), Atsuyuki Okabe (ed.), *GIS-Based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis, Oxford, 2005, pp. 191-209.

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「中世エジプトの貨幣政策」『一橋論叢』76巻6号, 1976年, 107-115頁。

* 「貨幣史からみた後期中世エジプト社会—E・アシュールの中世エジプト物価史研究に寄せて」『社会経済史』43巻1号, 1977年, 73-88頁。

「19世紀エジプト土地制度史研究—学界事情と資料紹介」『一橋論叢』84巻6号, 1980年, 31-47頁。

「19世紀前半のエジプト土地・税制度」一橋大学地中海研究会編『論文集・地中海地域における集落形成の諸問題』1980年, 1-22頁。

* 「19世紀後半のエジプト土地・税制度」『オリエント』23巻1号, 1980年, 1-22頁。

* “Egyptian Village Community under Muhammad ‘Ali’s Rule—An Annotation of Qanun al-Filaha,” *Orient*, Vol. xvi, 1980, pp. 183-222.

「カフル・シュブラフール村の村方騒動—19世紀エジプトにおける私的土地所有権の確立とイズバ農民」『東洋文化研究所紀要』87冊, 1981年, 51-116頁。

「エジプトにおける私的土地所有権の確立」『東洋文化研究所紀要』91冊, 1982年, 1-179頁。

“A Riot in the Village of Kafr Shubrahur,” The Mediterranean Studies Research Group ed., *Population Mobility in the Mediterranean World. Studies in the Historical and Contemporary Aspects*, Hitotsubashi University, 1982, pp. 165-181.

「19世紀中葉におけるエジプト灌漑行政」『一橋論叢』88巻5号, 1982年, 61-78頁。

* 「エジプト農村社会における村落有力者層—Leonard BinderのSecond Stratum論をめぐって」『オリエント』24巻2号, 1982年, 79-95頁。

「近代エジプト農村社会研究のためのノート」『東洋文化』63号, 1983年, 211-236頁。

「1863年公布二勅令にみる19世紀中葉エジプト農民の土地喪失過程」一橋大学地中海研究会編『地中海論集Ⅹ』, 1984年, 187-208頁。

* 「エジプト近代史研究動向—オラービー運動研究を題材として」『オリエント』27巻2号, 1985年, 108-117頁。

- 「アブー・スィネータ村醜聞—19 世紀中葉エジプト, 村落有力者層の権力基盤—」『東洋文化研究所紀要』99 冊, 1986 年, 153-245 頁。
- * 「19 世紀エジプトにおける税制度—その 1. 不動産賃貸借税」『イスラム世界』25-26 号, 1986 年, 70-102 頁。
- 「1863 年公布二勅令にみる 19 世紀中葉エジプト農民の土地喪失過程(続)」一橋大学地中海研究会編『地中海論集 X』, 1986 年, 193-222 頁。
- 「19 世紀中葉エジプトにおける税制度—その 2. 通行・市場税」『東洋文化研究所紀要』103 冊, 1987 年, 1-69 頁。
- 「エジプト現代史」『国際大学中東研究所年報・現代中東の知的世界』創刊号, 1987 年, 4-14 頁。
- * 「エジプト・オラービー運動に関する覚書—軍隊・農民・立憲運動」『歴史評論』452 号, 1987 年, 49-59 頁。
- 「19 世紀中葉エジプトにおけるさまざまな土地範疇—リズカ地について」『一橋論叢』98 巻 6 号, 1987 年, 157-174 頁。
- 「エジプト農村史研究序説—聞き取り」『カフル・シュブラフール村の村方運動』『アブー・スィネータ村醜聞』『東洋文化研究所紀要』106 冊, 1988 年, 269-338 頁。
- “Liquidity and Publicity in Urban Society in the Middle of Nineteenth Century in Egypt—As Reflected in Some Unpublished Documents in Relation to the Rent Tax on Real Properties,” The Mediterranean Studies Research Group ed., *Studies in the Mediterranean World. Past and Present XI*, Hitotsubashi University, 1988, pp. 43-59.
- 「19 世紀中葉エジプトにおける税制度—その 3. 土地税」『東洋文化研究所紀要』109 冊, 1989 年, 35-107 頁。
- 「国民軍の編成と遊牧民反乱—エジプト近代史における陰画としての遊牧民」一橋大学地中海研究会編『地中海論集 XII』, 1989 年, 11-20 頁。
- “Urban and Rural Societies in Mid-19th Century Egypt—As Reflected in Some Unpublished Documents Relating to Taxation Systems,” *The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam*, Vol. 3, The Middle Eastern Culture Center, Tokyo, 1989, pp. 247-272.
- * “Nomads and Farmers in the Process of the Modernization of Egypt,” *Orient*, vol. XXVI, 1990, pp. 78-85.
- 「情報と中東イスラム世界」『一橋論叢』106 巻 3 号, 1991 年, 33-52 頁。
- “The Data on Periodical (Weekly) Market at the End of the 19th Century in Egypt The Cases of Qaliubiya, Sharqiya, and Daqahliya Provinces,” The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean world XIII*, Hitotsubashi University, 1992, pp. 77-114.
- * 「エジプトにおける「民族」と「国民国家」」『歴史学研究』633 号, 1992 年, 13-25 頁。
- * 「「徴兵免除」嘆願文書にみる 19 世紀中葉エジプトの農村社会」『東洋史研究』51 巻 2 号, 1992 年, 77-99 頁。
- 「近代エジプトの遊牧民—「オマル・マスリーの反乱」聞き取り調査ノート」『一橋論叢』110 巻 4 号, 1993 年, 13-28 頁。
- “The Egyptian Rural Society in the Mid-Nineteenth Century as Reflected in the Document on Petition for the Exemption from Military Service,” The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XIV*, Hitotsubashi University, 1995, pp. 59-70.
- 「イスラム政治における公正と秩序—中心なき政治原理」『一橋論叢』114 巻 4 号, 1995 年, 18-30 頁。
- 「近代エジプトにおけるギリシア人とシリア人—エジプトの少数集団に関する覚書」『一橋論叢』116 巻 4 号, 1996 年, 112-129 頁。
- * 「「市場社会」としてのイスラム社会」『社会経済史学』63 巻 2 号, 1997 年, 81-100 頁。
- 「遊牧民 Minority or Vagabond?—近代エジプトにおける国家と遊牧民」『上智アジア学』14 号, 上智大学アジア文化研究所, 1997 年, 61-73 頁。
- * 「砂漠に消えた「革命」—近代エジプトの遊牧民「革命」」『地域研究論集』1, 国立民族学博物館・地域研究企画交

流センター, 1997 年, 110-129 頁。

“Alexandrian Melancholy—The Light and Shadow of the Modern Mediterranean World,” The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XV*, Hitotsubashi University, 1998, pp. 99-123.

* 「「賈金」からみた中世イスラム世界の貨幣事情」『歴史学研究』711 号, 1998 年, 72-78 頁。

* 「“Old Wine, New Bottle” or “Old Wine, Old Bottle”? (岡野内正「経済学と日本の中東研究」をめぐって)」『日本中東学会年報』14 号, 1999 年, 275-284 頁。

“The Bedouin in Egyptian National Identity: Minority or Vagabond?” Usuki Akira (ed.), *State Formation and Ethnic Relations in the Middle East, JCAS Symposium Series 5*, the Japan Center for Area Studies (JCAS), National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, 2001, pp. 173-185.

“Blood Linkage and Social Order in Egyptian Village Society,” The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XVI*, Hitotsubashi University, Tokyo, 2001, pp. 1-14.

「イスラムと開発」『国際協力研究』国際協力事業団, 18 巻 1 号, 2002 年, 1-7 頁。

「地域研究への誘い—地中海世界を材料に」『一橋論叢』127 巻 4 号, 2002 年, 53-67 頁。

* 「イスラム史は何を明らかにしたか」『歴史評論』歴史科学協議会, 630 号, 2002 年 10 月, 52-62 頁。

「近代イスラームについてのヨーロッパ」『別冊 環』⑤「ヨーロッパとは何か」藤原書店, 2003 年, 260-267 頁。

* “Islam and Development,” *Technology and Development*, January 2003, JICA, pp. 5-9.

* 「エジプトにおける「近代統計」と国民国家形成」『現代の中東』34 号, 2003 年 1 月, 1-20 頁。

「イスラム世界における「会社」—なぜイスラム世界は資本主義化に乗り遅れたのか」『大航海』48 号「特集 会社とは何か？」新書館, 2003 年, 176-185 頁。

“Attempt of linkage of the two approaches: Household survey & GIS—Migration to the Greater Cairo,” (アリ・エルシヤズリ, 岩崎えり奈, 後藤寛と共著)『地理情報システム学会講演論文集』第 12 号, 2003 年, 111-114 頁。

“Internal Migration Patterns to Greater Cairo—Linking Three Kinds of Data: Census, Household Survey, and GIS—,” (アリ・エルシヤズリ, 岩崎えり奈と共著) The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XVII*, Hitotsubashi University, Tokyo, 2004 年, pp. 173-212 +40.

“A Historical Study of the Market Society—Reflected in the Waqf System in Muslim Societies,” AJAMES (日本中東学会年報), 20-1 号, 2004 年, 47-63 頁

「エジプトにおけるマイグレーションと地域類型—三種類のデータ(センサス統計・世帯調査データ・地理情報)を接合する試み」『東洋文化研究所紀要』第 147 冊, 2005 年 3 月, 1-65 頁

「イスラム社会にニートはいるか？」『大航海』58 号「特集 ニート 転換する現代文明」新書館, 2006 年, 136-141 頁。

“Cairo and Alexandria at the Beginning of the 20th Century: An Analysis Based on Population and Education Censuses for 1907/8,” The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XVIII*, Hitotsubashi University, Tokyo, 2006, pp. 323-368.

* “Residential Patterns of Rural Migrants in Greater Cairo Suburban Areas,” AJAMES (日本中東学会年報), (with Erina Iwasaki and Naoto Yabe), 22-2 号, 2006 年, 105-123 頁。

“Is the Egyptian Village a Community,” *International Journal of Public Affaires*, Chiba University, Vol. 4, 2008, Research Center on Public Affairs for Sustainable welfare Society, Chiba University, 2008, pp. 5-26.

* 「砂漠に消えた「革命」(2)—掘り起こされる近代エジプトの遊牧民「革命」」『東洋文化研究所紀要』第 153 冊, 2008 年, 71-124 頁

“Rashda. A village in Dakhla Oasis,” (with Erina Iwasaki), The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World*

(c) 翻訳

- 「マフムード・アブデル＝ファディール「産油国への労働移動とインフォーマル・セクター」鈴木弘明編『エジプト経済と労働移動』アジア経済研究所, 1986年, 197-213頁。
- 「ヨーロッパとイスラム—ムハンマド・アブドゥラ, ガブリエル・アノト—論争」東洋大学100周年記念論文集『近代日本文化の歴史と論理』1987年, 123-198頁。
- クロード・カーエン『比較社会経済史—イスラム・ビザンツ・西ヨーロッパ』(渡辺金一との共訳)歴史学叢書, 創文社, 1988年, 135+14頁。
- アリー・バラカート『近代エジプトにおける農民反乱—近代エジプト社会経済史研究入門』(長沢栄治との共訳)アジア経済研究所, 1991年, x+200頁。

(d) その他

- エッセイ「現代文明批判の手段としての「イスラム世界」—羽田正『イスラーム世界の創造』に触発されて」『UP』396号, 東京大学出版会, 2005年10月, 31-37頁。
- エッセイ「イスラム復興とイスラム金融」『創文』493号, 創文社, 2006年, 6-10頁。
- エッセイ「文科省ニーズ対応型地域研究推進事業「アジアのなかの中東—経済と法を中心に」」『世界史の研究』No. 611, 2008年2月, 山川出版社, 54-58頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

- “Migration and Regional Categorization in Egypt” 第20回日本中東学会年次大会(明治大学), 2004年5月9日。
- “Modern Alexandria: A Mediterranean City” 一橋大学地中海研究会主催・国際ワークショップ “Diversity and Connectivity in the Mediterranean World” イタリア・ヴェネツィア, 2004年9月10-12日。
- 「パネル イスラムの経済思想の視点から」〈経済思想シンポジウム〉『経済思想の文化的背景』京都大学, 2004年10月11日。
- 日本外務省・イラン外務省・バハレーン外務省共催「日本・イスラム世界間『文明の対話』」セミナー, イラン・テヘラン, 司会, 報告, 2004年11月27, 28日。
- 一橋大学地中海研究会主催・国際セミナー “Diversity and Connectivity in the Mediterranean World” イタリア・ヴェネツィア, 2004年9月10-12日。
- 文部科学省・科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析—世帯調査とGISの接合を中心に」主催・国際ワークショップ「エジプトにおける人口センサス—その歴史と現状」の企画・組織・司会, 一橋大学・佐野書院, 2005年2月2日。
- 文部科学省・科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「地中海島嶼社会のマイクロエコロジー構造と海域研究の方法と視角」主催・国際ワークショップ「地中海の島嶼社会」の企画・組織・司会, 一橋大学・佐野書院, 2005年10月8日。
- 日本外務省・イラン外務省・バハレーン外務省共催「日本・イスラム世界間『文明の対話』」セミナー, チュニジア・チュニス, 2006年1月13, 14日。
- 第2回中東学会世界大会(WOCMES)パネル “Study of Rural Societies from Multi-Perspective Views: Case of Egypt” ヨルダン・アンマン, 2006年6月14日。

“Some Comments from a Socio-economic Historian of Egypt”, XIV International Economic History Congress ‘Complementary Relationship among Monies in History’, August 24, 2006, Helsinki.

“Preliminary Report on Field Study of Village ‘Rashda’ in Dakhla Oasis”, (with Erina Iwasaki), The 4th Workshop by the Mediterranean Studies Group of Hitotsubashi University ‘Diversity and Connectivity in the Mediterranean World II’, August 28, 2006, at Hotel Mena House, Cairo, Egypt.

Chiba University 21st Century COE Program International Conference “‘Tradition’, Environment and Publicness in Asia and the Middle East”, “Is the Egyptian Village a ‘Community’?”, December 16th, 2006.

日本外務省・イラン外務省・バハレーン外務省共催「日本・イスラム世界間『文明の対話』」セミナー，日本・東京，2007年2月20，21日。

“Transition from Pre-modern to Modern in the Middle East: in Case of Egypt” 第52回国際東方学会議 (2nd International Conference of Eastern Studies) Tokyo, May 18th, 2007.

“The Middle East within Asia—A Note on the Middle East in the context of Asia from the historical perspective”, 2007 International Symposium of the Institute of Humanities and the Institute of Middle Eastern Affairs, The New Changes in Asia in the 21st Century, Myongji University, Korea, December 5, 2007.

日本外務省・イラン外務省・バハレーン外務省共催「日本・イスラム世界間『文明の対話』」セミナー，サウジアラビア・リヤド，2008年3月24，25日。

* “The Middle East within Asia: A Note on the Middle East in the Context of Asia from a Historical Perspective”, JaCMES Lecture Series “The Middle East and Japan” No. 3, Crowne Plaza Beirut, November 21, 2008.

* 「グローバル化の時代の地域研究—その魅力と意義—」特別講演，広島大学アジア社会文化研究会シンポジウム「地域研究を問い直す」2008年12月13日。

(b) 国内研究プロジェクト

[研究代表者]

「エジプト農村社会の変容に関する多元的実証的研究—『アブー・スィネータ村の醜聞』再考」三菱財団人文科学研究助成，研究代表者，2003年 - 2004年。

「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析—世帯調査と GIS の接合を中心に—」一橋大学大学院経済学研究科・現代経済リサーチ・ネットワーク・プログラム(RNP)プロジェクト，2004 - 2006年度。

「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析—世帯調査と GIS の接合を中心に」科学研究費補助金基盤研究(A)(2)，2004 - 2008年度。

文科省・世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業「アジアのなかの中東：経済と法を中心に」2006 - 2011年度。

[研究分担者その他]

「アジア地域における歴史地理 GIS の構築」科学研究費補助金基盤研究(B)(1)，2002 - 2004年度，研究分担者(代表：後藤寛)

「日本・中東イスラーム関係の再構築—中東イスラーム地域研究の新地平」科学研究費補助金基盤研究(B)(1)，2002 - 2004年度，研究分担者(代表：臼杵陽)。

「日本・イスラーム関係のデータベース構築—戦前期回教研究から中東イスラーム地域研究への展開」科学研究費補助金基盤研究(B)(1)，2005 - 2007年度，研究分担者(代表：臼杵陽)。

「地中海島嶼社会のマイクロエコロジー構造と海域研究の方法と視角」(代表：坂内徳明)文部省科学研究費補助金基盤研究(A)(1)，2004 - 2008年度。

「地中海島嶼社会の経済社会ネットワークと地域研究の方法と視角」(代表:大月康弘)文部省科学研究費補助金基盤研究(A)(1), 2008 - 2012 年度。

「第2次世界大戦期の日本および枢軸国の対中東・イスラーム政策の比較研究」(代表:臼杵陽)文部省科学研究費補助金基盤研究(B)(1), 2008 - 2011 年度。

(c) 国際研究プロジェクト

[研究代表者]

“The Comparative Study between Egypt and China on the Spatial Mobility”, the Research Project by Hitotsubashi University (Graduate School of Economics) in Collaboration with Central Agency of People’s Mobility and Statistics (CAPMAS), 2001 - 2004.

“The Household Survey in Egypt and the Interdisciplinary Analysis Based on its Data”, the Research Project by Hitotsubashi University (Graduate School of Economics) in Collaboration with Central Agency of People’s Mobility and Statistics (CAPMAS), 2004 - 2008.

(d) 研究集会オーガナイズ

講演会・ワークショップ「長期的中東地域研究ネットワークの構築—グローバル化時代における相互理解と共同研究のために」, 2008 年 12 月 6 日, 一橋大学。

C. 受賞

流沙海西奨学会賞, 流沙海西奨学会, 1980 年

日本オリエント学会奨励賞, 日本オリエント学会, 1985 年

発展途上国研究奨励賞, アジア経済研究所, 1993 年

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

評議員(1999 年 4 月 - 2002 年 3 月)

(b) 学内委員会

中東・アフリカとの国際交流専門委員会委員(1992 年 4 月 -)

(c) 課外活動顧問

一橋大学端艇部顧問(1998 年 9 月 - 2004 年 8 月)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

成城大学経済学部非常勤講師(1997 年 9 月 -)

成城大学社会イノベーション学部非常勤講師(2003 年 4 月 -)

大東文化大学国際関係学部(大学院)非常勤講師(1998 年 4 月 -)

共立女子大学文芸学部非常勤講師(2003 年 4 月 -)

九州大学文学部非常勤講師(集中講義 2004 年 7 月)

(b) 所属学会および学術活動

日本中東学会(1997年 - 理事, 2000 - 2003年会長)

日本イスラム協会(評議員)

日本オリエント学会(1994年 - 1996年理事)

歴史学研究会(1997年 - 2000年編集長)

(d) その他

エフイーシー国際親善協会・日中東文化経済委員会委員(2005年7月 -)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

参議院国際問題調査会「イスラム世界と日本の対応」(参考人)(2004年2月18日)。

独立行政法人・日本学術振興会・特別研究員等審査会専門委員(2004年8月1日 - 2006年7月31日)。

日本私立学校振興・共済事業団・私立大学等経常費補助金特別補助・検討委員会・審査専門委員(2008年4月1日 - 2010年3月31日)。

文部科学省研究振興局・「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」拠点採択委員会委員(2008年5月19日 - 2009年3月31日)。

9. 一般的言論活動

「イスラム社会の常識・非常識」小平市民講座, 小川西町公民館, 2004年5月11日-7月20日。

「中東世界の経済社会—歴史的視点から」国分寺市民講座『外国を知る講座:知られざる中東』光公民館, 2004年6月23日。

「中東問題の歴史的・構造的背景」国際交流基金・中東理解講座『岐路に立つ中東—国家・民族・宗教』, 2004年9月29日。

「世界経済史のなかのイスラーム世界」2004年慶応義塾大学言語文化研究所公開講座『世界史におけるイスラーム世界』2004年11月6日。

「中東とはどういう世界か」「中東ではなぜ戦争・紛争が絶えないのか」日野市国際講座『中東理解講座』, 2005年2月12日, 19日。

「概説:中東にとっての近代」朝日カルチャーセンター・横浜『新しい世界史 中東近代の光と影—伝統と近代の相克—』2005年4月2日。

「岐路に立つ中東—パレスチナ/イスラエル, イラクを中心に」平成17年度一橋大学春季公開講座『紛争の地域史』, 2005年5月7日。

「基調講演」「総括」如水会・第60期一橋フォーラム『イスラムと世界』, 2005年, 9月13日, 11月29日。

「文明としてのイスラム」NHK文化センター青山教室・世界文明紀行, 2005年11月4日 - 2006年1月6日(7回)

「21世紀とイスラム」(7月22日)「欧米のイスラム観」(7月29日)「日本人のイスラム観」(8月19日)「イスラムとメディア」(9月16日)朝日カルチャーセンター公開講座『イスラム vs. 西欧』の近代 ①なぜイスラム教徒は近代文明に反発するのか』, 2006年。

「ナイル—地域をつむぐ川」国際交流基金・中東理解講座『エジプトはナイルの賜物:歴史の多層性と地域の多様性』, 2006年10月4日。

「イスラムにおける経済:信仰と金儲け」長野市民教養講座『イスラム世界の統一性と多様性—中東を中心に』, 2006年10月20日。

「イスラム・キリスト教・ユダヤ教」(10月7日)「近代におけるイスラムと欧米」(11月4日)「イスラム政治運動と欧米」(12月2日)JTBカルチャーサロン講座『イスラム世界と欧米:誤解の根源』, 2006年。

「概説:戦間期の中東」朝日カルチャーセンター横浜『現代中東が作られた時代—大戦間期の中東』, 2006年10月10月14日。

「ナポレオンのエジプト遠征」(2月3日)「近代ヨーロッパ文明とイスラーム」(2月17日)朝日カルチャーセンター横浜『地中海世界とイスラーム』, 2007年。

日本中東学会主催公開講演会「教育現場の中での中東・イスラーム」組織・司会, 東京・明治大学アカデミーコモン会場, 2006年7月25日。

日本中東学会主催公開講演会「地方における中東・イスラーム」組織・司会, 山口市市民会館小ホール, 2006年11月18日。

「イスラム復興とイスラム金融」朝日カルチャーセンター・新宿, 5回, 2007年1月-2月。

「近代とイスラム世界—中東の混迷」JTBカルチャーサロン講座, 3回, 2007年1月-3月。

「イスラムのゆくえ—岐路に立つイスラム文明」朝日カルチャーセンター・新宿, 5回, 2007年4月-6月。

「イスラム世界の常識・非常識」JTBカルチャーサロン講座, 6回, 2007年4月-9月。

「イスラム復興が起きた時代」朝日カルチャーセンター・横浜『なぜイスラム復興は起きたのか』, 2007年4月14日。

「グローバル化の時代のイスラム:中東と東アジア」長野市民教養講座『グローバル化の時代のイスラム世界と日本』, 2007年5月25日。

「文明としてのイスラム」JTBカルチャーサロン講座, 6回, 2007年10月 - 2008年2月。

「イスラムにおける経済:信仰と金儲け」府中市民講座平成19年度ふちゅうカレッジ市民企画講座『国際理解を深めるリレー講座~現在の中東・中央アジアとイスラム』府中市生涯学習センター, 2007年10月19日。

「激動の中東(1990年代)—湾岸危機から9・11へ」朝日カルチャーセンター横浜『激動の中東(1990年代)—湾岸危機から9・11へ』, 2007年10月20日。

日本中東学会主催公開講演会「日本のなかの中東,世界のなかの中東」組織・司会, 長野市信州大学, 2007年10月27日。

「湾岸から見た中東・イスラム世界事情」茨城県高等学校教育研究会歴史部講演会, 2007年11月2日。

文科省ニーズ対応型地域研究推進事業「アジアのなかの中東—経済と法を中心に」ワークショップ「ドバイであえて今,日本と世界を語る」組織・司会, アラブ首長国連邦・ドバイ, 日本総領事公邸, 2007年11月27日。

「グローバル化する世界とイスラム」日野市・公民館開設40周年記念・国際理解講座『世界情勢を探る~中東と東アジア』, 2007年2月4日。

「激動の中東:いま,改めて9・11の意味を問う」朝日カルチャーセンター横浜『激動の中東:いま,改めて9・11の意味を問う』, 2008年4月12日。

「なぜ今,イスラム世界との対話なのか」朝日カルチャーセンター横浜『なぜ今,イスラム世界との対話なのか』, 2008年10月11日。